

# 平成24年度(第9期)事業計画 主な項目



平成24年3月  
東京地下鉄株式会社

## サービス向上等に関する中長期の方針

## 平成24年度事業計画の主な項目

鉄道事業	<b>【特集】 自然災害対策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心の確保に向けた自然災害対策を推進します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災を踏まえ、帰宅困難者対策や高架橋耐震補強を推進</li> <li>換気口への新型浸水防止機の設置を推進</li> </ul>	P.5
	<b>有楽町線 副都心線</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有楽町線・副都心線の輸送安定化を図ります。</li> <li>副都心線のネットワーク拡大を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小竹向原～千川駅間連絡線設置:掘削等の土木工事の実施</li> <li>豊洲駅:軌道工事・各種駅設備の改良工事の実施</li> <li>副都心線:東急東横線・みなとみらい線との相互直通運転の開始</li> </ul>	P.8
	<b>東西線</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東西線の遅延対策及び混雑緩和を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南砂町駅:関係機関との調整を進め、土木工事に着手</li> <li>茅場町駅・門前仲町駅:掘削等の土木工事の実施</li> </ul>	P.11
	<b>ホームドア</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての路線へのホームドア設置により、安全性向上を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有楽町線:未整備駅への設置を推進</li> <li>銀座線:ホームの補強、柱移設等に係る調査等を実施</li> </ul>	P.12
	<b>バリアフリー</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全てのお客様が安心して気軽にご利用いただけるよう、バリアフリー設備の整備を推進します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1ルート※1:11駅完成・平成24年度末整備率84%</li> <li>多機能トイレ:22駅完成・平成24年度末整備率92%※2</li> </ul> <p>※1:段差が解消されている駅 ※2:車椅子対応トイレを含む</p>	P.13
	<b>ダイヤ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダイヤ改正により、利便性向上・混雑緩和を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日比谷線、千代田線、有楽町線、半蔵門線、副都心線におけるダイヤ改正の実施等</li> </ul>	P.15
	<b>駅サービス</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々なサービスの充実により、利便性向上を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運行情報メール配信サービスの開始</li> <li>駅構内地図情報サービスの全駅展開</li> <li>お客様のニーズに合った商品開発</li> </ul>	P.16

## サービス向上等に関する中長期の方針

## 平成24年度事業計画の主な項目

	サービス向上等に関する中長期の方針		平成24年度事業計画の主な項目	
鉄道事業	都営地下鉄とのサービス一体化	・都営地下鉄とのサービス一体化について、協議の上、推進することで、お客様の利便性向上を図ります。	・九段下駅の乗換利便性向上 ・乗換駅の追加指定 ・改札通過サービス	P.17
	環境	・駅における、太陽光発電システム、LED照明の導入等により、環境に配慮した企業活動を推進します。	▶ 浦安駅をはじめとした東西線地上駅6駅に太陽光発電システムを導入 ・LEDを用いたサインシステム及び駅照明等の導入	P.18
関連事業	・鉄道事業とのシナジー効果の発揮を基本とした積極的な事業展開を行います。	▶	・鉄道事業と関連事業の両面で活用できる不動産の取得 ・「Echika fit 銀座」、「Echika fit 永田町」の開業	P.21



# 鉄道事業

これまで以上にお客様から選ばれる鉄道会社を目指し、「サービス向上主要プロジェクト」<sup>※</sup>の確実な実行をはじめとした鉄道サービスの質的向上に取り組んでいきます。

※今後10年程度を見据え、混雑緩和、輸送改善、バリアフリー設備整備、ホームドア設置等の方針について取りまとめたプロジェクト(平成22年11月発表)

- ・東日本大震災を踏まえて、施設の耐震性の強化を推進します。
- ・大規模浸水対策を推進します。

## 高架橋耐震補強

当社ではトンネル・高架橋・地上建物について、阪神・淡路大震災を踏まえた耐震補強工事を概ね完了しており、震度7クラスの地震動を受けても崩壊することはありません。なお、東日本大震災の際も鉄道施設の崩壊はありませんでした。

一方、最大震度7に見舞われた仙台地区では鉄道施設の崩壊は起きず、人命の被害はなかったものの、一部において運転再開に支障する損傷が発生したことを踏まえ、今後は、**従来補強不要と判定されていた高架橋柱の全数を対象に耐震補強工事を推進**します。

【要補強柱本数：約1,200本】



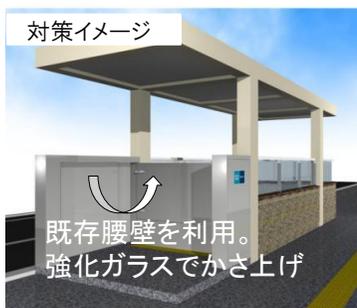
## トンネル内及び地下駅構内の浸水対策、津波対策

当社では浸水や津波等の恐れが生じた場合には、まずお客様の避難を第一として、速やかに当社社員がお客様を安全に地上まで誘導する体制を既に整備しております。また、豪雨等に伴う浸水対策として、出入口、換気口等において、これまで、止水板、浸水防止機、防水扉等の設置を実施してきました。

さらに今後は、大規模水害等を考慮した現在推進中の浸水防止機の改良を引き続き推進していくとともに、出入口等への対策を実施していきます。また、坑口（トンネルの入口部分）における浸水対策として、防水ゲート等の設置に向けた技術的検討を進めていきます。

津波に対しては、速やかに必要な対策を講じられるよう、今後も行政の動向等に注視しつつ、地域・関係各所と連携した対策も含め、調査・検討を推進します。

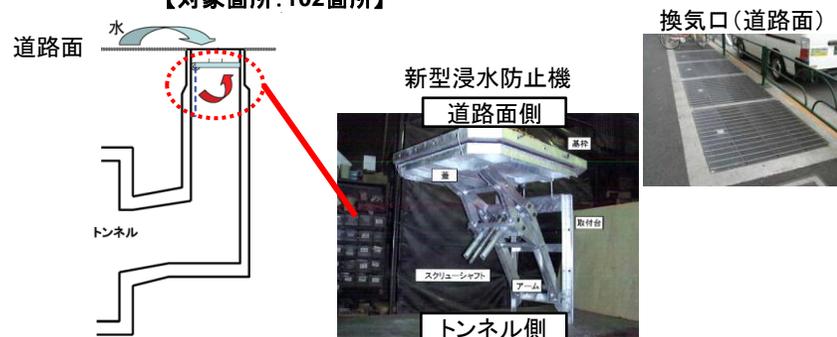
- 出入口：水深に応じて対策を実施します。  
【対象箇所：235箇所】



- 坑口：防水ゲートの設置を検討します。  
【対象箇所：4箇所】



- 換気口：水深6mの水圧に対応できる新型浸水防止機（従来は2m対応）を引き続き更新・設置していきます。  
【対象箇所：102箇所】



※中央防災会議「大規模水害対策に関する専門調査会」及び東京都「洪水ハザードマップ」における浸水エリアを想定して止水対象箇所を抽出

・東日本大震災を踏まえて、大規模地震発生時等における対応を推進します。

### 通信環境の整備

地下駅構内及びトンネル内の通信環境整備を推進することで、列車がトンネル内に停車した際にも、車内から外部と連絡をとることや、情報を入手することができるようになります。【平成24年中に整備完了※】

通信環境整備イメージ



※ただし、WiMAXは、平成24年度中

### 早期の運転再開・帰宅困難者対策

鉄道事業者間で密に連携がとれるよう、専用の連絡用通信設備を整備するなど、関係各所と連携し、運転再開のあり方を見直すことで、早期の運転再開ができるようになります。

帰宅困難者対策として、駅に防災用品を備蓄（飲料水及びアルミ製簡易ブランケット10万人分）しています。

### 各種訓練の実施

定期的に関係機関と連携した各種訓練を実施し、災害発生時にはお客様を適切に誘導します。



異常時想定訓練



救命技能講習会

### 非常災害時における情報提供

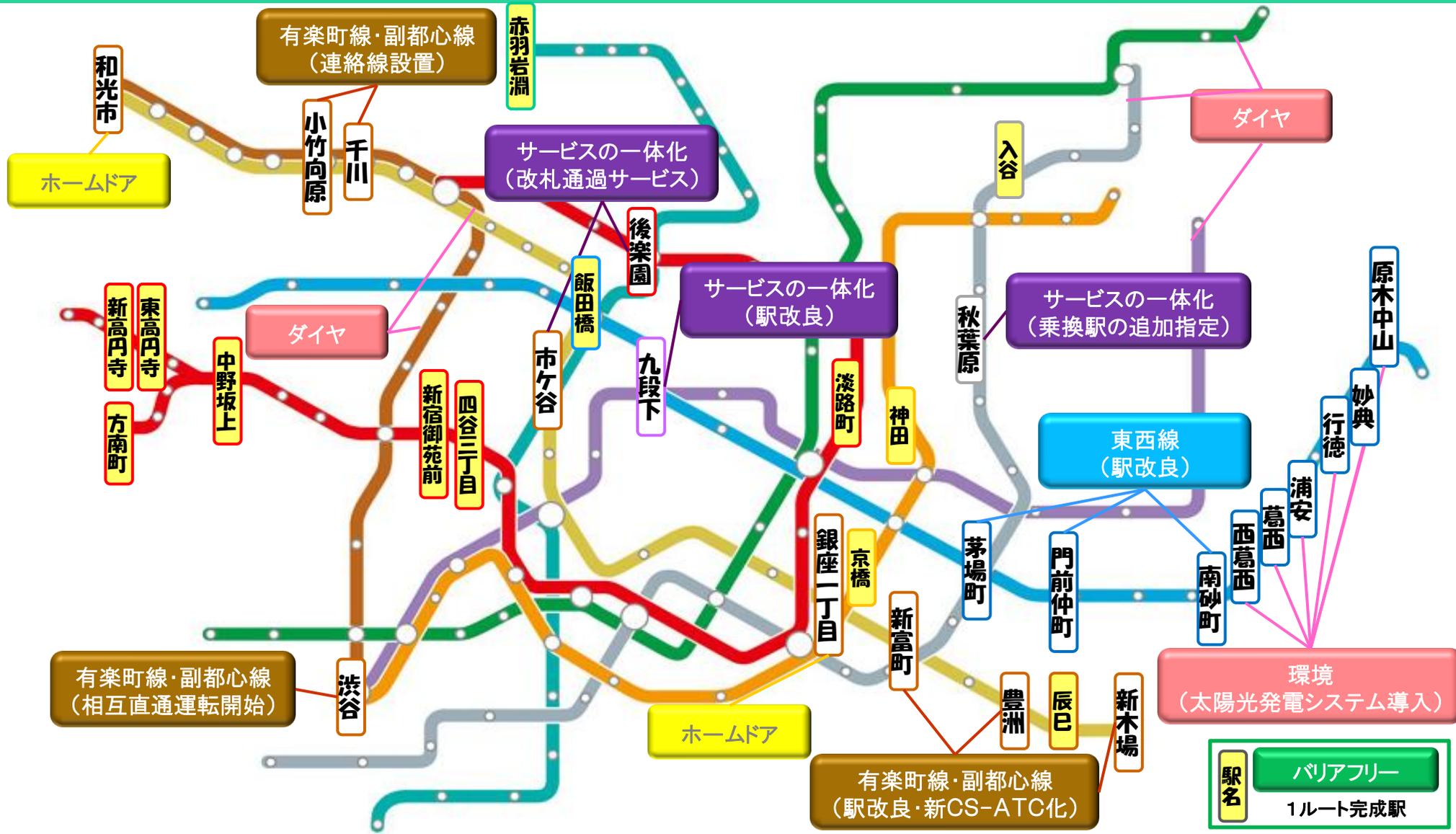
改札口ディスプレイを用いて、運行情報等の提供に加え、非常災害時緊急放送(NHK)を放映するとともに、駅構内一斉放送を活用することで、必要な情報を入手できるようにします。【整備完了年度：平成24年度】



放映イメージ

### <その他の取組み>

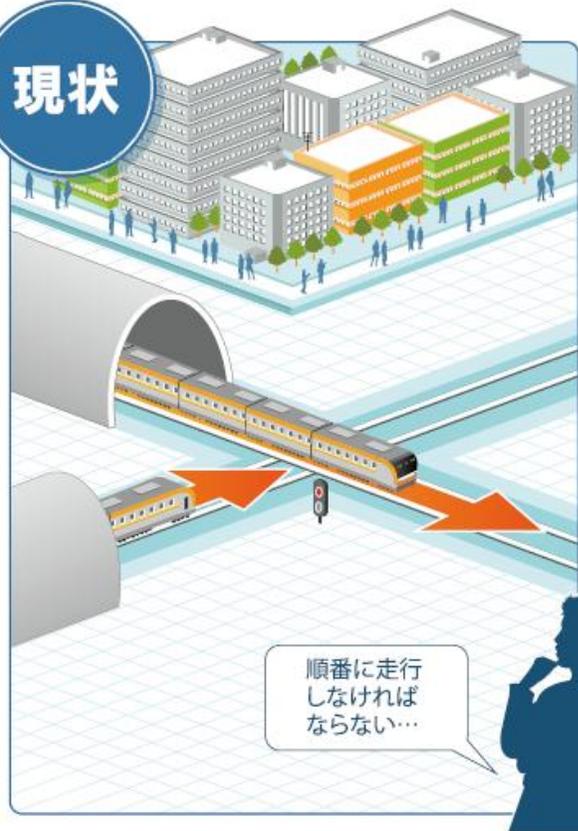
- ・一部のエレベーターに整備されているリスタート機能について、計画を前倒して整備
- ・エリア地震計の増設（現在33箇所→36箇所、3箇所増設）



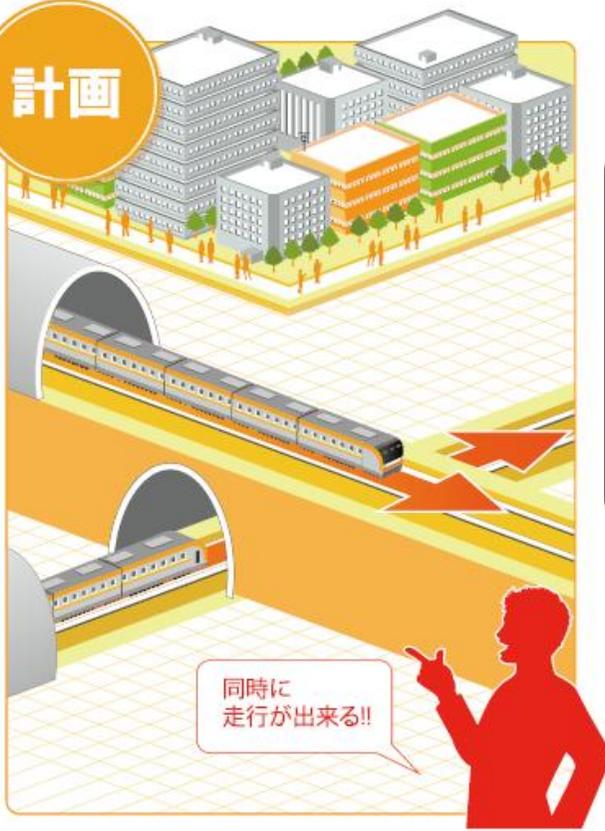
・小竹向原～千川駅間の連絡線設置による立体交差化

Y F 小竹向原～千川駅間立体交差化イメージ

現状



計画



<平成24年度の実施計画>

・既存構築の改造、連絡線用の構築増設・  
シールドトンネル建設のため、構築築造工事、  
既設構築撤去工事等を行います。

【完成予定年度】

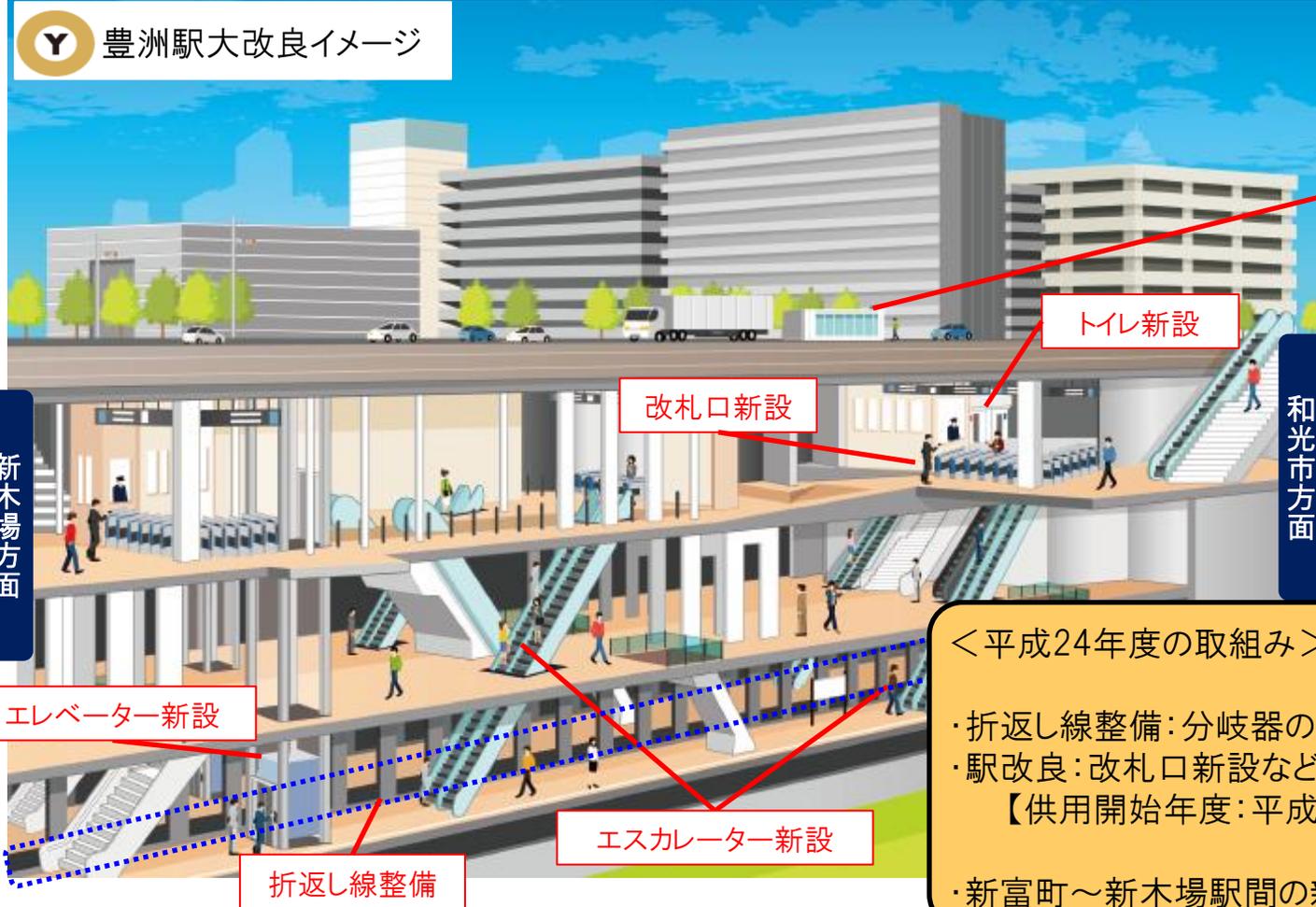
小竹向原駅から千川駅方面:平成24年度  
千川駅から小竹向原駅方面:平成26年度

【計画の概要】(総額約200億円)

小竹向原駅～千川駅間は、練馬方面または和光市方面から、新木場方面、渋谷方面それぞれに向かう列車が、地下トンネル内で平面交差する複雑な構造となっており、遅延や輸送障害が発生した場合には、平面交差部分で他方の列車を通過待ちする等の支障が生じています。このため、新たに連絡線を新設し、地下トンネル内を立体交差化することで、遅延発生時の縮小、輸送障害時におけるダイヤの早期回復等、輸送の安定化を図ります。

・豊洲駅の大改良(折返し線整備、駅周辺再開発等に伴う混雑緩和に向けた改札口の新設等)

豊洲駅大改良イメージ



出入口改良(イメージ)

新木場方面

和光市方面

トイレ新設

改札口新設

エレベーター新設

折返し線整備

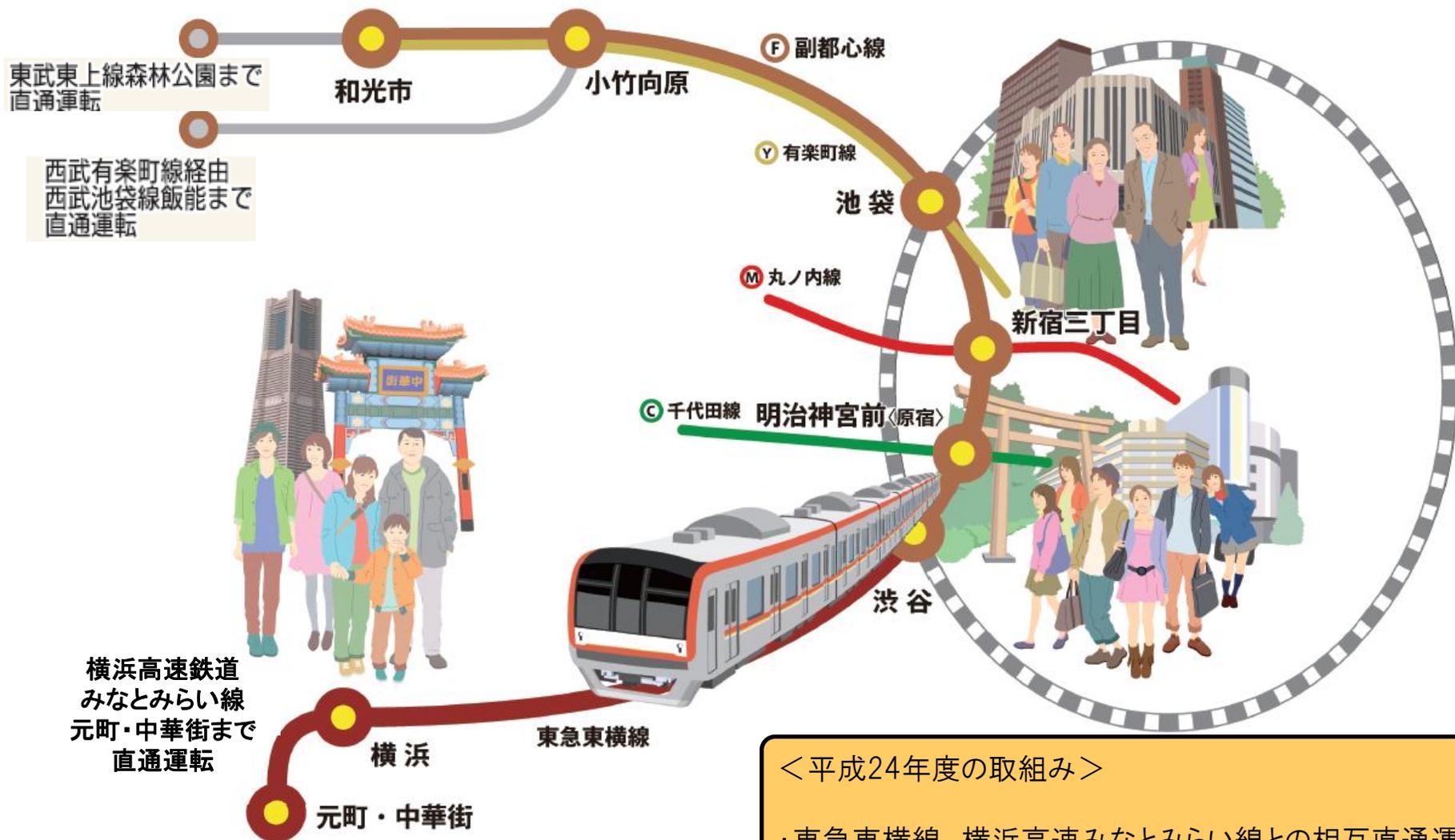
エスカレーター新設

<平成24年度の取組み>

- ・折返し線整備:分岐器の撤去・新設などの軌道工事を行います。
- ・駅改良:改札口新設など各種駅設備の改良工事を行います。  
【供用開始年度:平成24年度、完成予定年度:平成25年度】
- ・新富町～新木場駅間の新CS-ATC化を完了します。

【計画の概要】(総額約100億円)

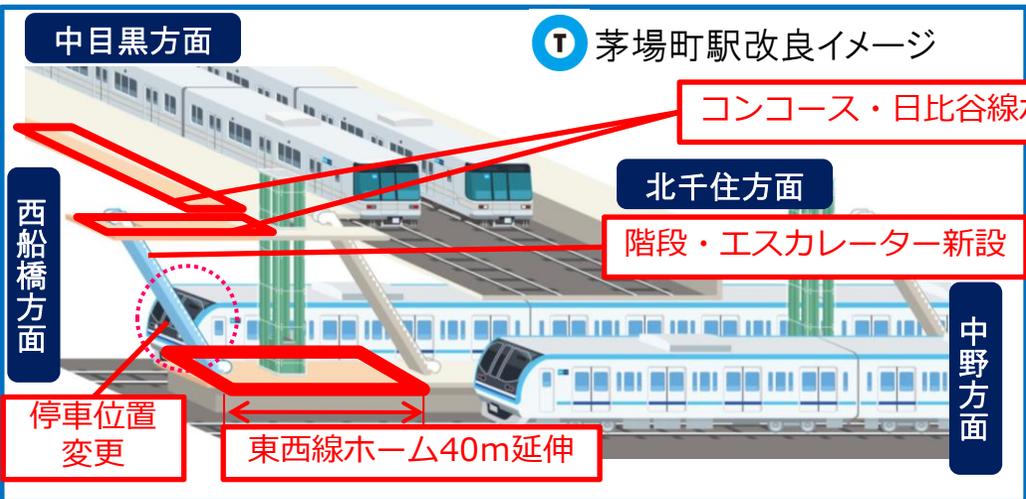
折返し線整備については、豊洲駅内側のホームを折返し線として活用できるように分岐器の交換等を行います。  
駅改良については、改札口・トイレの新設、出入口の改良のほか、ホームから改札階まで直通するエレベーター・エスカレーターの設置等を行います。



＜平成24年度の取組み＞

- ・東急東横線、横浜高速みなとみらい線との相互直通運転開始

・南砂町駅、茅場町駅、門前仲町駅の改良を推進します。



＜平成24年度の取組み＞  
 南砂町駅：線路・ホーム増設のため、関係機関との調整を進め、土木工事に着手します。 【完成予定年度：平成30年度以降】  
 茅場町駅：ホーム延伸・拡幅のため、埋設物の移設、掘削等の土木工事を行います。 【完成予定年度：平成28年度】  
 門前仲町駅：ホーム拡幅のため、掘削等の土木工事を行います。 【完成予定年度：平成25年度】

【南砂町駅改良計画の概要】(総額約340億円)  
 駅構内について、大規模掘削により線路及びホームを増設することで、同一方向に進む列車がホームの両側に交互に発着することが可能となります。その結果、十分な停車時間を確保することで、遅延対策及び混雑緩和を図ります。

【茅場町駅改良計画の概要】(総額約100億円)  
 日比谷線への乗換部分について、ホーム位置を西船橋方面に40m延伸し、中野方面の列車の停車位置を変更することに加え、階段・エスカレーターを新設するとともに、日比谷線ホーム(中目黒方面)の拡幅も行うことで、東西線と日比谷線の乗換えをスムーズにし、東西線のホーム上の混雑緩和、乗降時間の短縮を図ります。

- ・有楽町線への設置を進めるとともに、銀座線への設置に向けた各種調査を実施
- ・他の路線についても相互直通他社と協議の上、設置を推進

**Y** 有楽町線ホームドア設置予定


稼働中駅

平成24年度設置駅



本年3月10日から使用開始された有楽町駅のホームドア

## 【計画の概要】

当社では、ホームから線路内への転落事故や、ホームにおける列車との接触事故を防止するため、鉄道他社に先駆けて平成3年の南北線開業時からホームドアを設置しています。今後は、他の路線へのホームドアの設置に向け、相互直通他社と協議の上、設置を推進していきます。

## ＜平成24年度の取組み＞

- ・有楽町線：未整備駅へのホームドア設置を推進します。  
【完成予定年度：平成25年度】
- ・銀座線：ホームが狭隘な駅について、①ホーム補強、②ホーム上の柱移設等に係る調査等を実施します。  
【平成28年度以降、各駅で順次供用開始予定】

## 【現在の導入状況(平成23年度末)】

丸ノ内線(全28駅)、千代田線(2駅)、有楽町線(16駅)、南北線(全19駅)、副都心線(全11駅)

## 【ホームドア整備率】

平成23年度末 76駅・約42%

平成24年度末 78駅・約44%

※なお、有楽町線の全駅に設置完了した際には、84駅・約47%となります。

全てのお客様が安心して気軽にご利用いただけるよう、  
バリアフリー設備の整備を推進します。

・全てのお客様が安心して気軽にご利用いただけるよう、バリアフリー設備（エレベーター、多機能トイレ等）の整備を推進します。



エレベーター



多機能トイレ



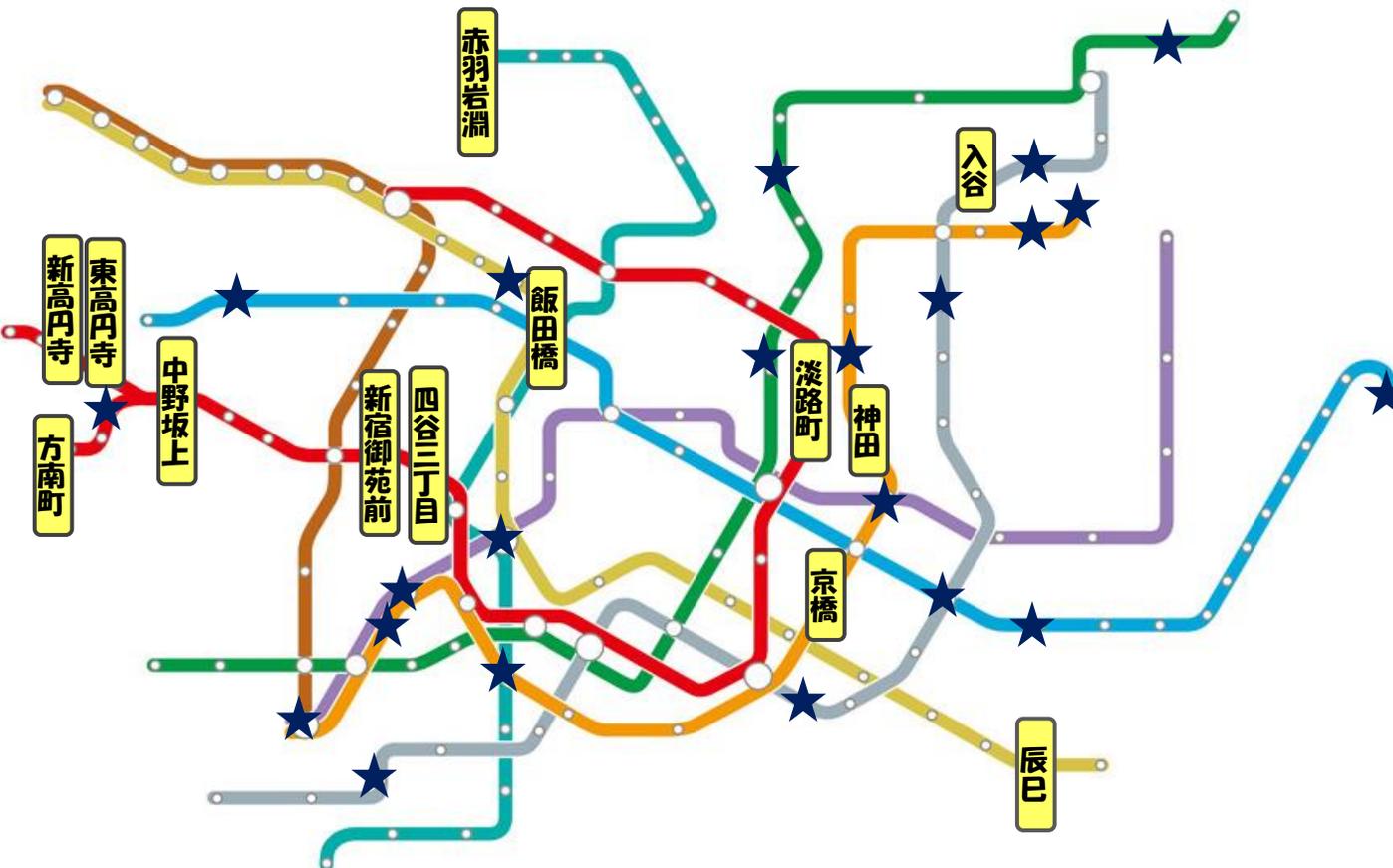
階段昇降機



誘導ブロック



車いすスペース



平成24年度 1ルート完成予定駅

★ : その他平成24年度エレベーター設置工事中駅

【エレベーターの整備について】

当社には古い路線が多く、また同時に東京都心部に位置することから、営業線への新たなエレベーターの設置のためには、用地や構造上の厳しい制約を克服していく必要があります。このような中でも、エレベーターの設置に当たっては、周辺の再開発動向を常に把握しつつ、事業者と連携して出入口を設置、所有者の協力を得た上での合築による出入口の整備、駅隣接の変電所移設による設置スペース確保といった工夫を行ってきました。今後さらに積極的な用地取得、施工のスピードアップにより、できる限り早期に1ルート整備率100%を目指し、整備推進します。(現在エレベーター設置工事中の27駅に加え、新たに8駅で着手します)

＜平成24年度の取組み＞

【1ルート整備率※】

平成23年度末 102駅/137駅・74%  
平成24年度末 115駅/137駅・84%

※段差が解消されている駅  
(複数の路線が乗り入れる駅は、1つの駅として計上)

・多機能トイレ整備については、できる限り早期に多機能トイレ整備率100%※を目指し、整備推進します。

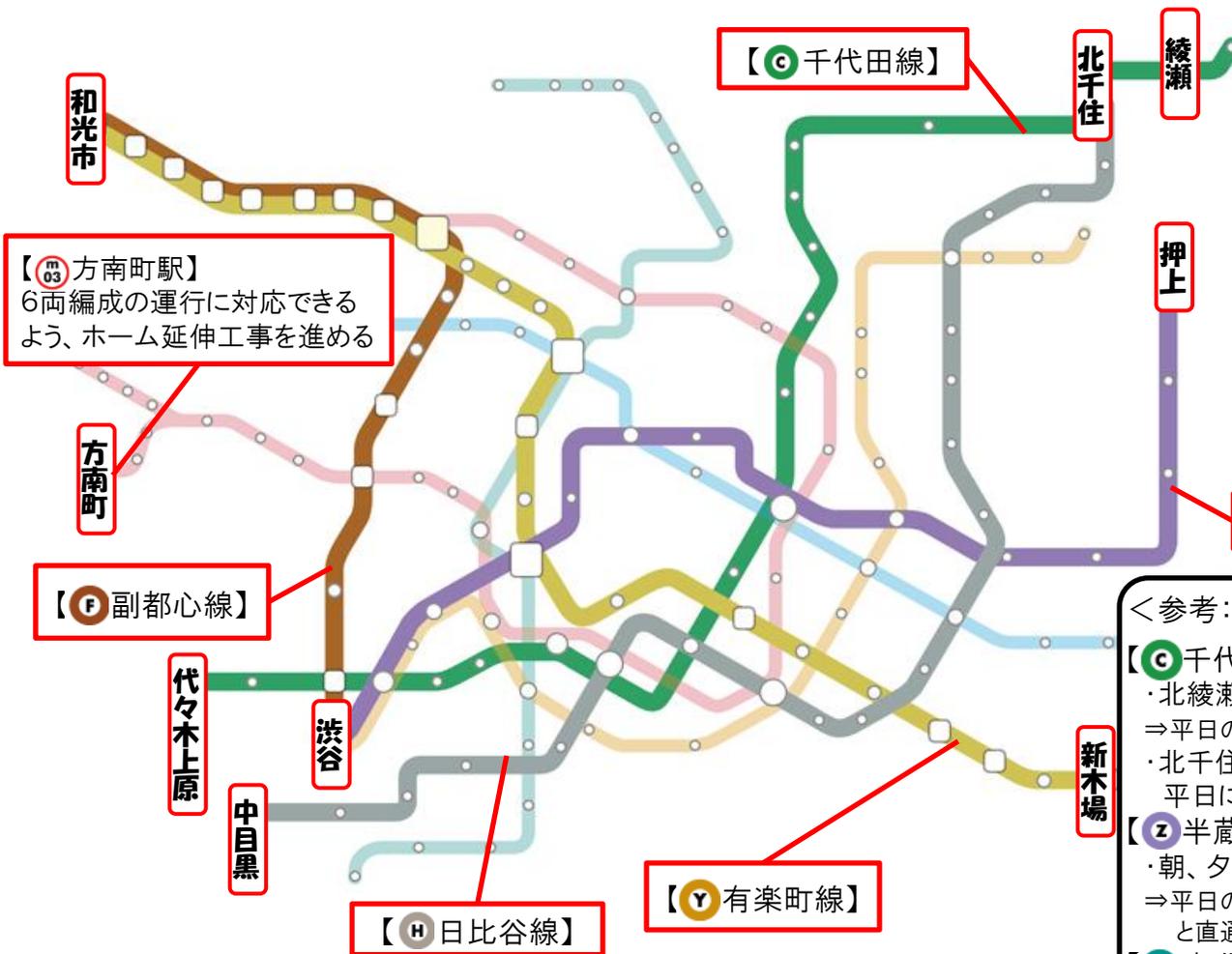
【多機能トイレ整備率※】

平成23年度末 121駅/137駅・88%  
平成24年度末 126駅/137駅・92%

※車椅子対応トイレを含む

【エスカレーター設置基数】

平成23年度末 115駅/137駅・1008基  
平成24年度末 115駅/137駅・1030基



＜平成24年度の取組み＞

- ・日比谷線、千代田線、有楽町線、半蔵門線、副都心線において、早朝・朝ラッシュ・夜間・深夜時間帯における増発等のダイヤ改正を行います。

＜参考：平成24年3月17日(土)ダイヤ改正＞

【C 千代田線】

- ・北綾瀬駅～綾瀬駅間の区間列車を平日の夕ラッシュ時に増発  
⇒平日の夕ラッシュ時に、約15分間隔から約7分30秒間隔に増発
- ・北千住駅と箱根湯本駅を結ぶ特急ロマンスカーを平日にも運転(メロはこね号1往復増発)

【Z 半蔵門線】

- ・朝、夕、夜間時間帯の列車増発  
⇒平日の夕・夜間時間帯に渋谷駅(東急田園都市線と直通運転)～押上駅間3往復増発等

【N 南北線】

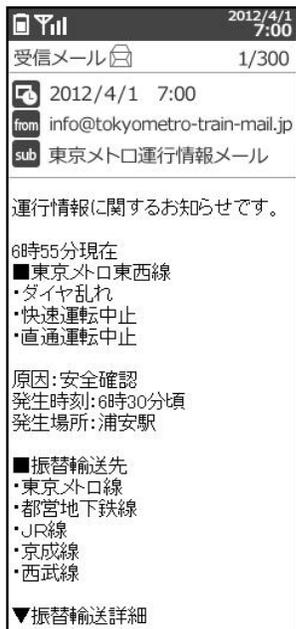
- ・夜間から深夜時間帯にかけて、直通列車の増発、運転区間延長  
⇒平日の19時以降、白金高輪駅～埼玉高速鉄道線浦和美園駅間3往復増発等



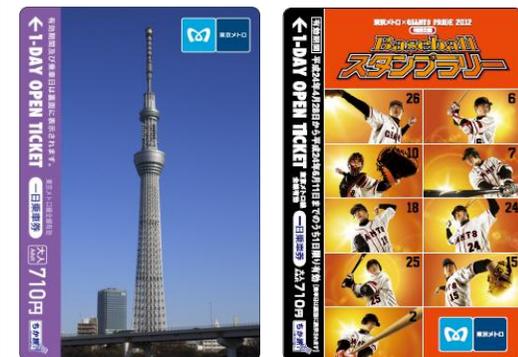
千代田線  
特急ロマンスカー

【運行情報メール配信サービス】

メールイメージ



【お客様のニーズに合った商品開発】



スカイツリー券面  
一日乗車券

ジャイアンツスタンプラリー専用  
一日乗車券

【駅構内地図情報サービス】



② 九段下駅改良イメージ

改札階の壁撤去により  
乗換えルートが短縮

既存乗換えルート

<平成24年度の取組み>

- ・九段下駅のホーム階、コンコース階の壁の撤去工事を完了し、改札内での乗換えサービスを開始します。
- ・乗換え駅の追加指定(岩本町駅・秋葉原駅)及び改札通過サービス(春日駅・後樂園駅、市ヶ谷駅)を開始します。
- ・本郷三丁目駅の連絡通路整備、六本木駅の改札通過サービスなどの乗換え利便性の向上について、引き続き検討・協議し、条件の整ったものから順次、実施していきます。

ホーム階の壁撤去により  
改札階を経由せずに乗換えが可能

駅における、太陽光発電システム、LED照明の導入等により、環境に配慮した企業活動を推進します。

T 浦安駅イメージ

太陽光発電システム



LED照明



LEDを用いたサインシステム

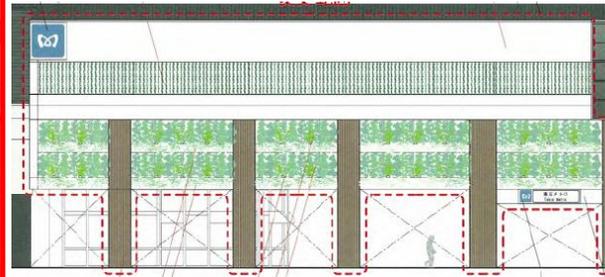


自然光の透過性が高い膜屋根



※写真等はイメージ

緑化イメージ



＜平成24年度の取組み＞

- ・環境への取組みとして、浦安駅をはじめとした東西線地上駅6駅に太陽光発電システムを導入します。
- ・また、LEDを用いたサインシステム及び駅照明の導入等を推進します。

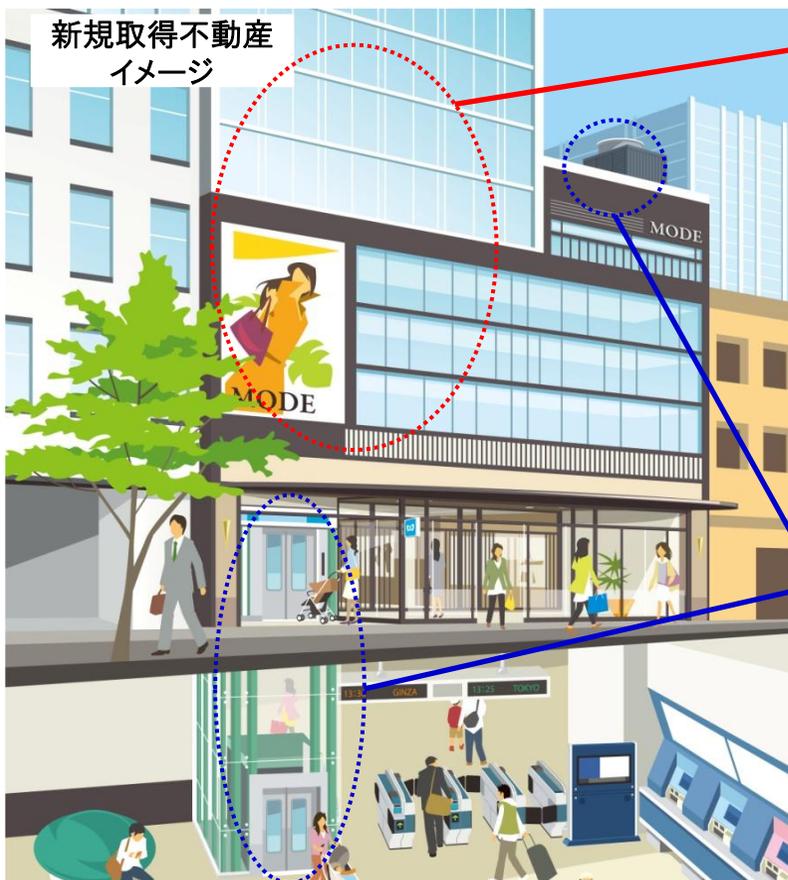


# 関連事業

鉄道事業とのシナジー効果の発揮を基本とした積極的な事業展開を行います。

○不動産事業

・バリアフリー設備の整備が困難な駅を中心に、鉄道事業と関連事業の両面で活用できる不動産を取得するなど、事業規模を拡大



新規取得不動産イメージ

関連事業の展開  
(店舗・オフィス)

エレベーターの設置、  
駅冷房のための冷却  
設備の設置

<平成24年度の取組み>

- ・鉄道事業と関連事業の両面で活用できる不動産を取得します。

【鉄道事業における活用例】

- ①エレベーターなどバリアフリー設備の整備
- ②駅冷房化の推進、
- ③旅客流動の改善 等

- ・渋谷ヒカリエ(オフィスエリア)について、4月に開業します。
- ・下谷一丁目用地等の保有資産の開発を推進します。

○流通事業

- ・「Echika fit 銀座」、「Echika fit 永田町」を開業

平成24年度末には「Echika」「Echika fit」合わせて6駅で展開。



＜平成24年度の取組み＞

- ・「Echika fit 銀座」、「Echika fit 永田町」を開業します。

店舗面積： Echika fit 銀座 約250㎡  
Echika fit 永田町 約400㎡

Echika fit 銀座イメージ

イメージ①



イメージ②



○流通事業

・「ANA To Me CARD PASMO JCB(ソラチカカード)」をはじめとした「To Me CARD」の入会を促進

ソラチカカード イメージ



(表面)



(裏面)

<平成24年度の取組み>

・「ANA To Me CARD PASMO JCB(ソラチカカード)」をはじめとした「Tokyo Metro To Me CARD」の入会促進キャンペーンを実施します。

- ・ソラチカカードは、ANA カードとPASMO 機能付きカードが初めて1枚になったカードです。
- ・ANAおよび提携航空会社の国内線・国際線ご搭乗で「ANA フライトマイル」が、東京メトロでのPASMOによるご乗車で「メトロポイント」が、JCB加盟店でのショッピングのご利用で「JCB カードのポイント(Oki Doki ポイント)」が貯まる大変便利でお得な多機能カードです。
- ・特にマイルの貯まりやすさは、鉄道系クレジットカードではトップクラスです。

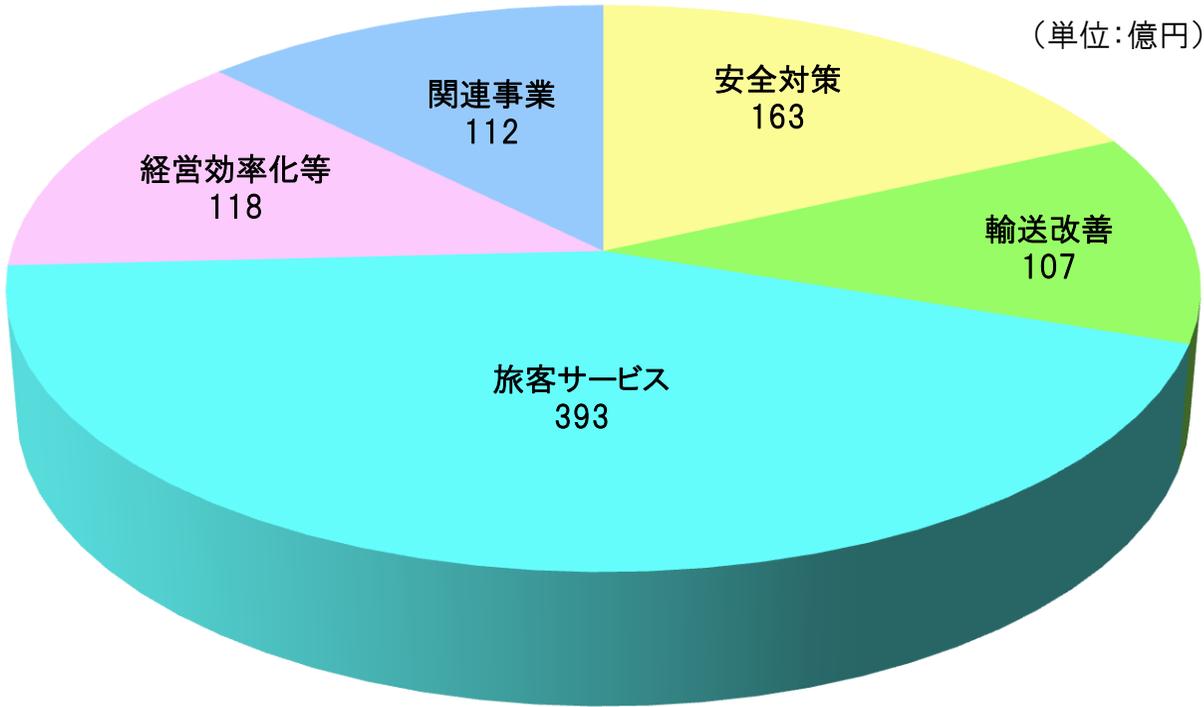
○広告・IT事業

・車内ディスプレイを順次導入し、車内デジタル広告「Tokyo Metro Vision」を拡大

# 平成24年度設備投資予算の概要

(単位: 億円)

## 平成24年度予算 895億円



項目	平成24年度 予算
安全対策	163
保安度向上	99
火災対策	10
車両更新	28
ホームドア設置	17
新CS-ATC化	7
輸送改善	107
旅客サービス	393
バリアフリー整備	203
駅空間整備	81
改札周辺利便向上	32
その他	74
経営効率化等	118
関連事業	112
流通事業	13
不動産事業	99
合計	895

注：本資料に記載の投資額・完成年度等については、今後の関係各所との協議等により変更となる可能性があります。

